



Report 3

自由な意見交換で資源活用のアイデアを もてなしワークショップ

西城自治振興区が主催する「もてなしワークショップ」が1月28日、西城自治振興センターで開催され、17人が参加しました。



▲ワークショップの様子

参加者はそれぞれに思う「西城の地域資源」や活用方法を提案し、地域の人たちとどうやって一緒に盛り上げ、地域づくりにつなげていけるか、そのしくみづくりについて話し合いました。

今回初の開催ということで、参加者からは「地域づくりについて自由に発言できる場ができてよかった」という声が聞かれました。

このワークショップは西城を好きな人なら誰でも参加でき、西城をより良く活性化させるための自由な意見交換の場として、今後も月に1度開催されます。参加したい、興味があるという方は、西城自治振興センター（☎0824-82-2175）までお問い合わせください。

Report 4

華麗なシュプールを描く 第50回庄原市東城地区スキー大会

庄原市体育協会東城支部が主催する庄原市東城地区スキー大会が2月1日、ひろしま県民の森スキー場で開催されました。

今回で50回の節目を迎えたこの大会は、数多くのジュニア選手が巣立った歴史ある大会です。

大会は、個々のレベルに合わせたスキー講習に36人が参加し、競技には5歳から60歳代までの25人が、男女、年齢別の12部門に出場し、タイムを競いました。

大回転競技にエントリーした60歳代の選手は「ここに来ると、スキーと関わったこれまでのことを一瞬で思い出す感じがする。いつまでも挑戦したい」と意気込んでいました。

東城スキークラブ会長の岩本尋明さんは「この大会は私が生まれる前から始まりました。その思いを受け継いで頑張っています。この大会に参加してくれた全ての人がスキーを大好きになってほしいと思います。そして、今後も歴史を積み上げていきたいと思います」と話していました。



▲旗門を攻める60歳代の選手

Report 5

昔の暮らしを学ぶ 比和小が比和自然科学博物館で学習

1月30日、比和小学校3年生の児童8人が、昔から使われていた道具について学ぶため、比和自然科学博物館を訪れました。

進藤眞基館長の指導のもと、児童たちが事前に調べていた昔の道具の名前をもとに、わらで作られていた屋根の家の模型を見ながら、昔ながらの暮らしを学びました。

博物館内には、昔使われていた農作業用の道具なども展示しており、今まで目にしたことのない道具を実際に見て触れることができるとあって、児童たちは興味津々。最後には、それぞれ印象に残った道具の絵を描き、「家に帰っておいちゃん、おばあちゃんに見せたい」と声を弾ませていました。



▲進藤館長から説明を受ける児童

市内のイベントやまちの話題をお届けします。
身近でホットな情報をお寄せください。
情報政策課広報広聴係
☎0824-73-1159 / Fax0824-72-3322

Report 1

伝統の風習で春を感じる とうろう菓子作り体験

総領中学校1年生15人が2月6日、総領高齢者活動センターで伝統のとうろう菓子作りを体験しました。

とうろう菓子は総領独特の風習で、花のない時期に、ひな祭りの花の代用として猫柳の枝に飾って楽しんでいました。

生徒たちは老人クラブの皆さんの指導のもと、赤、黄、緑、白に色付けされた餅を、角樽、提灯などのせんべい鑄型で焼き、ひもを付けて張り合わせる作業を体験。特に、せんべい鑄型で焼く工程では、3~4キロもある型の重さに悪戦苦闘していました。

体験を終えた生徒は「地元の老人クラブの方々と楽しく交流し、伝統行事を体験できて良かった」と喜んでいました。



▲せんべい鑄型で焼き上がったとうろう

Report 2

てっぺん目指し熱戦展開 広島県雪合戦大会・鍋&漬物グランプリ

「第18回広島県雪合戦大会」が1月31日・2月1日、高野スポーツ広場で開催され、県内外から97チームが参加しました。

一昨年に松江自動車道が開通したことで交通アクセスが良くなったこと、また「鍋&漬物グランプリ」の人气が定着してきたことが影響し、会場には選手や観客など2日合わせて5,000人を超える人でにぎわいました。

晴天に恵まれた前大会と異なり、今回は吹雪で視界が悪くなるほどの悪天候となりましたが、どのチームも雪球を投げる、かわす、相手チームのフラッグを奪い合う白熱した試合を展開しました。

2月1日に開催された「第5回鍋&漬物グランプリ」の会場には、今年も開始時刻前から長蛇の列ができ、雪合戦大会に負けない盛り上がりを見せました。

市内外から12団体が出店した鍋グランプリでは、口和町産・瀬戸もみじ豚、高野町産・味噌、広島県産・牛乳などを材料にした「道の駅たかの」の『瀬戸もみじ豚の味噌チャウダー』が、「お茶に合う漬物」をテーマに開催された漬物グランプリでは、古家美壽枝さんの『干柿のロールキャベツ漬け』が漬物名人自慢の漬物19品を押さえ、見事グランプリに輝きました。



▼にぎわう鍋&漬物グランプリ会場



▲迫力の攻め合い

Report 6

地域包括ケアの充実にむけ勉強会 西城町自治振興区連絡協議会

西城町自治振興区連絡協議会が1月30日、地域包括医療・ケアの充実にむけた勉強会を西城自治振興センターで開催し、西城・八銚自治振興区と西城町内の18

の自治会から役員を中心に59人が参加しました。

西城市民病院の郷力和明院長を講師に招き、地域包括ケアの充実のために住民自治組織の取り組みの重要性について理解を深めました。



▲郷力院長の話に熱心に耳を傾ける参加者



会長の小笠原洋行さんは「地域包括ケアを地域づくりとしてとらえ、地域全体で支えあう体制づくりをさらに進めていくために、今後も関係者が一緒になって考えていきたい」と話していました。

◀郷力院長(左)が昨秋受賞した、国民健康保険関係功績者厚生労働大臣表彰と、へき地医療貢献者表彰を参加者全員で喜び合う

Report 7

一面の雪に大はしゃぎ 口和でスノーフェスタが開催

口和町宮内自治会などでつくる実行委員会が主催する「スノーフェスタ in くちわ」が1月25日、元金尾原スキー場で開催されました。

今年で第10回を迎えたこのイベントに市内外から約150人が参加。かまくら作りやそりすべりジャンプ大会、雪中宝探しなど、雪を使ったさまざまなイベントに子どもたちは大はしゃぎ。恒例のイノシシ肉入りのうどんや、みんなでついた餅入りぜんざいを味わい、口和の冬の日を満喫していました。

宮野克己実行委員長は「毎年、雪の心配はあるが、市外の参加者が大勢来てもらえるので、今後も続けていきたい」と話していました。



▲みんなで餅つき

Report 8

文化財を火災から守るために 市内各地で文化財防災訓練



▲放水訓練(比和町の荒木家住宅)

1月23日から25日にかけて、第61回文化財防火デー(1月26日)に合わせた防災訓練が市内各地で実施されました。

「文化財防火デー」は、昭和24年に国宝「法隆寺金堂」の壁画が焼損したことを機に定められたもので、文化財を災害から守るため、この日を中心として全国的に文化財の防火運動が展開されています。

本年度は高町の「佐田神社」、西城町の「観音寺」、東城町の「多熊神社」、比和町の「荒木家住宅」で実施され、地域住民による通報や消火器による初期消火、地元消防団との連携による消火活動などが行われました。

参加者からは「周辺住民と消防署、地元消防団、文化財関係機関の連絡体制を密にして連携していくことが重要」と話していました。